

- 司会進行/羽地 宏幸
- ロータリーソング/君が代・四つのテスト
- ゲスト/与那覇朝樹氏(PROJECT.y共同代表)
- ビジター/松島 寛行氏(那覇西 RC)
- マークアップ/宮良幸男・小林昌道・橋本孝来
上勢頭 保(計4名)

出席報告

会員総数 39名 出席義務会員 38名
 出席数 24名 欠席数 14名
 出席率 63.16%(2月 通算出席率 63.16%)

本日のニコニコ

BOX ￥ 0(累計¥35,000)
 コイン ￥4,442(累計¥77,603) **合計¥112,603**

会長挨拶：新 賢次



本日は国立自然博物館について卓話をお願いしております。今年のテーマであります「奉仕・天資と文化」、文化をキーワードにしていますので、この国立自然博物館も関連があるんじゃないかと思ひまして、快く引き受けてくれましてありがとうございます。

ご承知の通り八重山地域は観光でにぎわっております。この観光は美しい海、大自然、そういったものが目玉になっております。しかしながら文化施設も欲しいよねという声も聞きます。そういった声を具現化していく話になるのかと思います。やはりこういった文化施設を備えることによって、さらに八重山の自然をより魅力的にアピールできるのではないかと思います。

幹事報告:宮良 薫

- ・ガバナー公式訪問のお礼、IM 大会の決算報告書が届いています。
 - ・松阪順一君が 2018~2019 年度当地区ガバナーに決定いたしました。
- <理事会の報告>
- ・会員選考から4名の新入会員の推薦が上がっていきまして、理事会承認されました。選挙通知を会員の皆さんに送付致しますのでよろしくお願い致します。
 - ・55周年について、2/10が島外からの出欠返信日なので、それまでに各委員会を開いて頂きたいと思ひます。

ゲスト卓話:与那覇 朝樹氏

PROJECT.y 共同代表
 ~テーマ「国立自然史博物館について」~

こんにちは。PROJECT.yの共同代表になっていきます。与那覇朝樹と申します。国立自然史博物館について、皆様にも知ってもらいたいと思ひ、このような時間を頂きました。

先々週バナナの南口の管理棟で第1回のPROJECT.yの講演会を開きました。80名くらいの市民の方が集まって頂いて、自然史博物館とはどんなものだろうという話をしました。私たちPROJECT.yは1年前くらいからこういった活動を始めていますが、1年経ってようやく講演会などを手掛けるようになり、今回が私の講演としては2回目になります。簡単に自己紹介をしたいと思います。私は昭和45年に石垣に生まれました。海星小学校、石垣中学校を出て、高校は本島の沖縄尚学を出たんですが、その後大学に進んで、今は新川の与那覇病院を継いでおります。自然史博物館は私の専門分野ではないんですが、自分が歩んできた事を考えると、自然史博物館というのが八重山に相応しいんじゃないかという事で、声をあげて、それに賛同する方が集まってくれて少しずつ大きな声になって、こういった会にも呼ばれたんじゃないかと思ひます。

自然史とは、本当に自然の歴史です。地球がだいたい50億年という歴史があります。宇宙にあるガスとか隕石が集まって1つの星になって、星が集まる事によって火山活動があって、火山活動で水蒸気が出て、地球が冷えることにより海になっ

て、海の中に生物が誕生してそこから酸素が生まれる。酸素が生まれることによって地球上に植物、昆虫そして恐竜とか動物が生まれてきました。自然史というのは地球の成り立ちなんです。そうすると人間も自然史の一部という事になります。

先ほど会長からもありましたが、文化というのも人間が生み出したものなので、実は自然史の範ちゅうに入ってくるかと思ひます。自然史博物館ができるとなると自然だけじゃなく、人間が歩んできた事とか文化とかも皆さんに知らしめることが出来る場になるんじゃないかと思ひております。自然史博物館はそういった様々な領域を扱います。地球の成り立ち、地質学・鉱物学、天気・気象なども学ぶことができます。そして石垣は非常に星がきれいです。そういった天文学、あと生物です。動物、植物、昆虫。自然史博物館で皆さんぱっと浮かぶのは恐竜、そういったものがあります。私たち人類も地球の一部なので、自然史の範ちゅうに入ってきます。動物園とか植物園とか水族館も自然史博物館の範ちゅうに入るんですけど、それら生き物は外れて、標本とかをアカデミックに研究するのが自然史博物館です。自然そのものを知らしめるという場です。

まず自然史博物館日本にはどれだけあるかというと8つ、全部大阪市立とか北九州市立とか県レベル市町村レベルの博物館しか現在日本にはありません。日本には国立の自然史博物館というのはいないんです。上野にある科学博物館、自然史も扱っていますが、総合博物館なんです。世界に目を向けると、アメリカには3つ国立博物館、イギリスには大英博物館、フランスには国立のパリ自然史博物館というのがあります。アジアにはまだありません。ですので、日本でもアジア地域でも国立博物館が必要ではないかという声が出てきたのが、2,3年前からなんです。

なぜ自然史博物館を八重山にと思いついたかというと、2014年、2年前の11月のタイムズと新報の記事に国立自然史博物館を沖縄に誘致する構想が提言されて載っていました。これを見て面白いなとこういうのもあるんだという事で、色々調べ始めました。そうすると、日本学術会議が沖縄と東北に自然史博物館が必要だと、東北というのはどうしても震災復興の目的もあるんですけど、沖縄は自然の保護、生物多様性があるので選ばれていました。日本学術会議ですが、内閣府に所属する1つ機関なんです。内閣総理大臣の直課、どちらかというと政府から独立した職務で、いろんな日本の科学技術の発展のために提案をする会議です。例えば昨年ノーベル賞を取ったニュートリノ、岐阜県のカミオカンデの施設があります。あいうのも日本学術会議が何十年前に提案して、それが実現してカミオカンデという大きな施設が

できて、その結果ノーベル賞、ニュートリノの質量を見つける事によって発見できた。そういった日本の知識を集めた方々が集まる会議です。

その中で沖縄に自然史博物館があると望ましいと言われました。松浦さんという学会員の1人ですが、沖縄は日本の中では飛びぬけて生物の多様性が高い地域、そこに実現することは極めて意義が深い。自然史研究がアジアは非常に遅れているんです。そういう所と協力関係を発展させることによって、支援する点からも沖縄は優れた立地条件を持っていると、そういったふうに松浦さんがおっしゃって、それで沖縄が選ばれたという経緯があります。

生物多様性なんですが、実は1985年に出来た言葉です。どういう事かという、沢山のいろんな生物がいる所が一番自然が豊かだと、それが生物多様性。沖縄はそれが日本の中でもアジアの中でも突出しているという事です。その中でもどこが生物多様性が優れているかという、八重山地方、西表を代表する八重山が生物多様性が非常に豊かではないかと思ひます。八重山に自然史博物館ができれば、建物だけじゃなくて、その周り、屋外展示ができて、さらに足を延ばして西表、竹富とかに行くようなフィールドトリップ、つまり島全体が博物館にできるのではないかと考えています。特にバナナとか自然と一体化された自然史博物館、竹富、西表とかフィールドトリップをする事によって、そこで学んだ事を博物館に戻って、復習したり出来るのが八重山の特徴ではないかと思ひます。

さらに世界に誇る珊瑚礁、石西礁湖というのが石垣、八重山にはあるんです。もちろんダイビングしている方はよく知っているんですが、なかなか地上にいると見る事ができないと言うのもあるので、やはり水族館とか世界に誇る珊瑚を展示できる施設を自然史博物館に付帯させると、非常に良い物ができると思ひます。

また空、石垣には国立天文台が既にあります。それを生かしてプラネタリウムと造ろうという計画もあるんですが、それを全部博物館に一体化すればいいのではないかと考えています。自然史博物館、宇宙博物館、プラネタリウムを併設することによって、世界に類を見ない施設になるのではないかと思ひます。自然史博物館、展示とか見せるだけではなくて、会議所も大きいのができるので、将来的にはMICEとかの施設にもなり得るんじゃないかと思ひます。大きな会議室がある事によって、博物館の側で会議をしたり、懇親会をしたり、そうすることによって八重山の経済に貢献できるような施設になるのではないかと思ひます。

国立自然史博物館を誘致する、いい話をしましたが、いくつか課題もあります。1つは安全性と

保全性です。自然史博物館というのは展示だけでなく、そこにいろんな種類のもを保存したり、データとして残さないといけないんです。安全に保存するためにはやはり八重山の中心部に置かないといけないというのがあります。東北地方と沖縄に置くと言うのも実はリスクを分散する目的とも言われているので、もし石垣に置くのであれば真中に置く必要があるのではないかと考えております。そういう面も考えて、八重山は山があるので対応できるのではないかと考えています。

問題は大きな箱を造るのはけっこう簡単ではあるんです。維持するのが非常に大変だと言われています。東京の上野にある国立博物館は年間 200 万人くらいお客さんが来るそうです。だいたい維持費が年間 40 億かかると言われています。40 億のうち 30 億は国から交付金が出ていますが、自前でも 10 億円年間維持費としてかかる。色々試算すると 200 万人から 300 万人が石垣に必要ではないかと考えています。今八重山の観光客が 110 万人くらいですので、倍くらいの人達が来るような場所にしないと行かないし、それを受入れるくらいの場所にしないと行かない。インフラの整備、電気、水道、もちろん飛行場の問題、港湾、宿泊施設、たくさん人が来るとゴミも出てくるので、そういった事ももし八重山に誘致するのであれば考えて行かないといけない。そういった事を石垣市として考えて行かないと、大きい施設はできないんじゃないかと考えています。

国立自然史博物館の波及効果なんですけど、1つは自然環境保全。そしてこの博物館がある事によって、教育とか人材育成ができるのではないかと、さらに観光客が今の倍必要だと考えると経済成長が非常に大きくなる。これら 3 つの波及効果があると思います。特に経済成長と自然環境保全というのは、実は相反する物なんですけど、博物館というのはそれを上手く発展させてくれる施設です。

簡単にまとめていますが、自然史博物館を八重山に誘致するメリット、八重山の観光資源である自然を壊さずに未来永劫維持できる。世界中から研究者が八重山に来てくれます。その研究成果を世界に発表することによって、八重山のアピールにもなる。アミューズメントパークとは異なれば景気の影響は受けないだろうと思っています。自然を深く理解することによってリピータも増えるだろうと。一番いい事だと思うのは、自然史博物館を通して、学んだ子供達が将来各分野で活躍できる。そういった人材が出てきてくれるのが八重山にとって大きなメリットではないかと思っています。

国立博物館を誘致するシンポジウムが本島で開かれていました。第 1 回が 2 年前の 12 月、2 回目が去年の 11 月にありました。我々実はそれから参加して、シンポジウムの先生方とも接触して意見

交換会をしていました。その効果が実って来年の日程が確定ではないですが、たぶん 7 月 17 日になるのではないかと思います。第 3 回目のシンポジウムを石垣で開けることになりました。非常に大きい事だと思います。その時には日本学術学会の委員の方々も来られますし、八重山の自然をアピールする良いきっかけなので、ぜひたくさんの方が八重山のシンポジウムに参加してもらいたいと思います。大ホールを借りています。千人規模です。千人規模を動員しないと八重山をアピールできないんじゃないかと思っています。ぜひ皆さんにアピールしてもらって誘致活動に協力して頂ければと思います。

☆例会風景☆



夢の広がるお話をした

石垣ロータリー

国際ロータリー第2580地区

石垣ロータリークラブ週報

<今月のロータリーレート \$1=120円> Weekly Report No. 2

国際ロータリー・テーマ



世界へのプレゼントになろう
K. R. ラビ・ラビンドラン

2015-16年度
会長テーマ **「奉仕・天資と志」**

会長:新 賢次 副会長:前木
直前会長:上原 秀政 幹事:宮 良
副幹事:前原 博一 SAA・出席:羽 地
情報・会報:名 渡 山 秋 彦

創立記念日 1962年3月12日

2016年(平成28年)2月10日(水) 第28回 例会(通算2689回)



<今週の職場:(株)先島ガス(玉城 守雄会員)>

例会日 水曜日 12:30~13:30
 例会場 ホテル日航八重山(0980)83-3311
 事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4

TEL/FAX(0980)83-2917
 URL <http://ishigaki-rotary.jimdc.com>
 E-mail ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp

